

午後2時34分開会

○林委員長 ただいまより議会運営委員会を開会いたします。日程に沿って進めてまいります。1、陳情審査について、継続審査となっております送付2-11千代田区議会議員の定数削減ならびに報酬削減、政務活動費の削減を求め、です。案文の朗読は省略でよろしいですかね。（「はい」と呼ぶ者あり）それでは、陳情審査をこれより開始いたします。進め方についてなんですが、陳情審査をするにあたって委員の皆さんで何かございますか。

○長谷川委員 報酬と政務活動費については、報酬審、政務活動費は審査が行われているところであるのですが、定数については前回削減になったときの資料をいただければありがたいのですが、いかがでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林委員長 前回削減というと・・・・・・

○長谷川委員 24年ですかね。その時のと。

○林委員長 一つずつでいいですか。まず、平成24年の8月に定数削減の陳情書が千代田区議会で審査されております。この時に関連した資料を陳情審査が企画総務委員会に送付されまして、その時の議事録及び連合審査会、常任委員会三連合審査会を開催しておりますので、この時の議事録並びに議員講演会で明治大学の牛山教授の講演がございますので、この時の講演の要旨、そして、本会議で中間報告と陳情の最終的な報告をしているので、このもの一式を陳情審査にあたって陳情審査の資料とする形でよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林委員長 木村副委員長。

○木村副委員長 今後の進め方についても。座ってで、いいですか。

○林委員長 座ったままでいいですよ。すみません。

○木村副委員長 今後の審議の進め方にもちょっと関わってくるのですね。本陳情は、定数削減、報酬削減、政務活動費の削減と3つの問題についての陳情となっています。ただ、報酬については特別職であり、報酬審議会の答申を受けて、議会として判断するという第三者機関の答申を受けてと言う仕組みとなっております。また、政務活動費については、条例上は議長が各会派に交付するということになっていて、それが手前みそにならないように政務活動費交付額等審査会という第三者機関の答申を受けて判断するという仕組みとなっています。ですから議会が自主的に判断できるのは議員定数に関わるものなので、これについて審査するという形で論点を整理した方がいいのではないかと考えています。

○林委員長 ありがとうございます。これについてはいかがいたしましょうか。長谷川委員の方から、特別職報酬等審議会の答申、そして、議長が諮問されている政務活動費交付額等審査会の答申、ついこの間ですけど、これも一応審査に合わせた形で議論を整理するにあたって陳情審査資料として用意したうえで、ここで方向性を次のところで木村副委員長が指摘されたような報酬の削減並びに政務活動費の削減につきましても、それぞれ特別職報酬等審議会の第三者の審議のうえ、我々議員の方が最終的に判断して確認しているのを陳情者に改めて陳情審査の中で資料とともに明らかにしていくと。ならびに政務活動費交付額等審査会、今年か。今年。2定か。1定か2定か出てきたこの答申も踏まえて、それぞれ識見のある方々と区民も入った形で、答申も出している、ここ資料も確認しつつ、議論の整理を定数削減のところに絞った形で次回の陳情審査の

ところで確認してまいりたいと思いますが、よろしいですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林委員長 ありがとうございます。そうすると、定数の削減のところでは前回の資料もあるのですが、その他に何かありますか。例えば、区民の人口が増えたものですか。平成24年の時ですとまだ5万人ぐらいしかいない時ですが、今は6万7千人ぐらいになっているので、陳情者も区民一人当たりの議員数とかなんとかでやっているのですが、その辺の資料も事務局の方に、大変お手数なんですけど、区民の人口推移。有権者推移。選挙人の推移なのかな。選挙人名簿の人口。どちらがよろしいんだろう。人口の方がいいですか、有権者より。住民基本台帳上の人口の推移がわかるもの。これが平成の始めぐらいからの頃からのですかね。前回の平成24年の時は、結構昔からやってもらっていたんですね。昭和55年から推移が入っている資料で、昭和55年の時は国勢調査ですけども、昭和55年が5万4千人だったと。これがぐっと減って行って平成2年になると3万9千472人、この時の定数が36人です。法定の。このあと平成3年に定数を36人から28人に削減をしたと。次に、平成7年、ここで3万4千780人と千代田区で最も国勢調査上、低いところなんですけど、ここで法定定数30名のところ25名まで削減したと。こののがV字回復として人口が増えているにも関わらず、定数は上限30のままですけども、定数は条例上25名で変更しなかったと。この推移がわかる資料を陳情審査の際の委員会資料として皆さんとともに確認していくという形でよろしいですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○木村副委員長 議会がチェックすべき事務事業ですよ。これがどのぐらいになっているのか。確か昔、私が議員になったころは、6百いくつだったかと。議会側がチェックすべき事務事業というのはどのぐらいになっているのかと。その推移がわかるものも。

○林委員長 そうすると、特別区制度の改正ですとか、いろいろ清掃事務事業の移管で入ってきて、千代田区の事務が増えてきた推移がわかる表も合わせた形で。すぐできるのかな。これ、ちょっと難しいかもしれないが、大体の推移を。事務事業のカウントが執行機関の内部によって、事務事業のひとつが一番簡単なのは。事務事業概要の項目数をカウントすればいいんでしょうが。その中でも分かれていたり、合算したりとかもあるかもしれないし。とりあえず事務事業概要をベースに、大変な作業になるかもしれませんが、事務事業が増えてきたということがわかる資料ですよ。もう一点ありますか。長谷川委員。

○長谷川委員 この議会運営委員会で陳情審査はするのですが、定数のことになると他の議員の方々にも関係することなんでどのようにご意見を伺ってというか委員以外の方の意見を伺うことはできるかどうかのように考えたらよいのかなと思いますが、いかがでしょうか。

○林委員長 それについては、共通の土台となる資料をこの議会運営委員会で確認をとらしていただいて、資料を全議員に配付するのも、陳情審査の折に委員の皆さんに確認していただいて、共通の資料のもとにしてご意見を賜っていくのか、再度知恵出しをしないといけないかなと思っておりますが、資料の方はよろしいでしょうかね。先ほど、木村副委員長、長谷川委員からご指摘を賜りました。報酬について、政務活動費について、定数のところは人口と事務事業について、並びに平成24年の陳情審査した折の資料一切と言う形でよろしいですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林委員長 はい、ありがとうございます。それでは、確認させていただきましたので、

次回の陳情審査までに資料を事務局の方と調整させていただいて、ご用意いたします。次の陳情審査までに会派で、議会運営委員会に入られていない方も会派もおられますし、1人会派の方もおられますので、意見聴取とすることを次回の陳情審査までのところでお話しさせていただいて、問題提起をしていただければと思います。その他、何かやりますかね。よろしいですかね。そこまでで。その他、進め方についてございますか。ご意見いいですか。岩田委員、何かありますか。（「特にありません」と呼ぶ者あり）いいですか。岩佐委員もいいですか。

○岩佐委員 すみません。人数というのは、多様な意見がどれだけ反映できるかということにすごく影響がでるものだと思っています。女性議員の数と定数との関係というのがわかる資料があればと思うのですが、ちょっと漠然としたリクエストなので、もしあればということ。

○林委員長 千代田区議会ではなくて、例えば、市議会ですとか。

○岩佐委員 市議会とか、市議会も含めて女性がゼロの議会もたくさんありますし、人数が増えると、都市部とは違う傾向もありますが、割と定数と女性議員の数というのは影響が出やすいと聞いたことがありますので、それがわかる資料があれば。

○林委員長 調整させていただきたいです。ある程度、全国市議会や全国町村議会などの定数との関連性など全部になっちゃうと。（「そうですね」と呼ぶ者あり）ちょっと調整させてください。小林委員。

○小林やすお委員 今回の審査するにあたって、必要な資料なのかな。（「いない」と呼ぶ者あり）今回の陳情審査にあたって、今後議論の先行きの場面で必要かと思うのですが、今回審査するにあたって、必要な資料なのかなと思って。

○岩佐委員 もし、データから顕著な傾向がみられるのであれば、また、これは議論の中で一つの根拠になると思うのですね。減らしても大丈夫なのかとか、あるいは減らすと多様な意見も反映しにくくなるのか。あとは意見とか考え方ももちろんあるんですけど、もし傾向として出ているのであれば、検討に値するのかなと考えたのですが。もちろん、そのようなデータや研究があるかどうかは私の手元に今あるわけではありませんので、ちょっと調整をしていただきたいと思います。

○林委員長 木村副委員長。

○木村副委員長 今、岩佐委員の発言を受けて感じたことなんですけど、元々、議員定数って、人口に応じて定数は決まっています、今は定数以下の数字をそれぞれの議会で決めるとなっているじゃないですか。その法定の定数からどれだけ議員の数を少なくしている議会ほど女性の議員が少ないという傾向があるのではないかとということじゃないかと思うのですよ。

○林委員長 ちょっと調整させていただいて、前提は大選挙区のところだけでいいですよ。定数1、2の県議会とか政令指定都市みたいとか分かれているところと全く大選挙区の千代田区と違いますから、大選挙区中心として、だいたい中規模の25とか、20人から30人ぐらいの議会を増やしたり、減らしたりしているところで、あまり多いところだと参考にならないと思いますので、定数50人のところの5名を減らすのと違うと思いますので、調整をさせていただければと思います。

○岩佐委員 お願いします。

○林委員長 よろしいですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林委員長 それでは、陳情審査、他になければ次回に向けて資料の確認をさせていただきましたが、よろしいですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林委員長 はい、それでは陳情審査の取り扱いは継続でよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○林委員長 はい、それでは継続審査とさせていただきます。よろしいですね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕